様式第３ 号(第４ 条関係)

会議録

■附属機関等の会議の名称

第４回篠山市原子力災害対策検討委員会

■開催日時

平成２５年３月２２日(金)　１４時００から１６時２０分まで

■開催場所

篠山市民センター　第１研修室

■会議に出席した者の氏名

⑴ 委員１０名

⑵ 執行機関事務局３名

⑶ その他０ 名

■傍聴人の数

０ 名（記者　名）

■議題及び会議の公開・非公開の別

公開

■非公開の理由

なし

■会議資料の名称

資料－１　　第３回委員会のふりかえり

資料－２　　「原子力災害対策指針（平成２５年２月２７日改正）　原子力規制委員会

資料－３　　「地域防災計画（原子力災害対策編）作成マニュアル（平成２４年１２月改正)」　内閣府

資料－４　　「関西防災・減災プラン原子力災害対策編の改定と今後の予定

資料－４の２　　「関西防災・減災プラン（原子力災害対策編）【改定案】」　関西広域連合

参考資料－１　　「宮城県美里町地域防災計画（抜粋)」　（橋本委員からの情報提供）

■会議次第

１．開　会

２．報　告

（１）第３回検討委員会のふりかえり

（２）防災対策指針、市町防災計画策定マニュアル等について

（３）守田委員からの報告

３．その他

■会議録（要点録）

１．開会

２．報告

（１）第３回検討委員会のふりかえり

（２）防災対策指針、市町防災計画策定マニュアル等について

（３）守田委員からの報告

A 委員　　篠山市独自のＯＩＬを設定した場合、ほかの自治体との避難の基準が違うことが考えられ、その場合、避難の調整ができるのか。

事務局　　他自治体との避難基準が違う場合、他の自治体が避難を受け入れる余裕があるかどうかは、今後、よく議論していかなかいといけない。

B 委員　　篠山市は、避難を受け入れる、市民を避難させる、両方をやる覚悟が必要である。どこかの自治体で、バスをチャーターして逃げる計画を作成している話があったが、実際問題として、バスの数が足りるのか、また、バス運転手が放射線の高い地域に行くことができるのか、課題である。

篠山市では、子ども、妊婦さんを避難させる、ある一定の年齢をの者は、被曝覚悟で避難民を受け入れる作業を行う。

事務局　　兵庫県の担当者との話の中で出た話だが、篠山市があわてて避難するためにバスをチャーターしてしまうと、本来逃げなければならない事故近辺の人たちの避難が遅れてしまうことになると助言された。

C 委員　　避難する、受け入れるについては、広域的な課題も多いことから、関西広域連合で検討すべき課題である。

D 委員　　篠山市へ逃げてきた人に対して、篠山市での危険情報をどのように伝えるか、課題である。

B 委員　　原子力の防災対策は、国や県が決めるべきこと、周りの自治体が決めるべきことを決めないと、決められないことが多い。

E 委員　　放射線のモニターリングの数値を市民がリアルタイムでわかる仕組みが必要。

F 委員　　放射線測定器を購入されることになるが、一定以上の数値になるとアラームが鳴るようにセットしておいて、アラームが鳴ればどうするかを事前に考えておけばいい。

G 委員　　自治会が放射線測定器を管理して、避難の対応をするという話は、非常に危険である。そこまで、自治会が情報や機械の管理ができるか。

B 委員　　原子力防災対策は、解けないパズルを解くようなもの。篠山市レベルでできることから、着実にやっていくことしかない。少しでも被害者を減らす、自分で自分の身を守る教育が必要。

D 委員　　福島県の人への差別はひどかった。ガソリンは入れられない、ホテルには泊まれないなど。避難民を受け入れるための教育が必要。

C 委員　　防災学習会での講師が、放射線に対して寛容な講師、例えば私のような講師、また、逆に放射線を受け入れない講師により学習を受ければ、市民のとらえ方が１８０度変わってくるため、学習会の進め方は、大変難しい。

F 委員　　安定ヨウ素剤の服用について、ＯＩＬの数値だけによらず、事前に配付しておいて、事故のある一定の情報が来た時点で服用するという指示が出たという基準を持っている自治体もある。

C 委員　　安定ヨウ素剤の事前配付は難しい。例えば、配布していたものを誤飲して障害がおきる危険性と比較して、どちらが有益性があるか、大変難しい。